

# いたわり はげます 平和な学校

～「平和は城山から」～

## 学校の合言葉

「Peace(ピース)飛び交う、日本一楽しい学校をつくろう」

<全国学力テストの結果から>

○知識・技能、思考・判断・表現力も、全国や県の平均正答率を大幅に上回っている。しかし、思考・判断・表現力の「目的に応じて文章を書いたり、文章と図表を結びつけたりする力」に課題が見られる。

自律

対話

選択

### 授業改善

- 対話を取り入れた授業  
→体育の校内研究を通して対話的で深い学びを充実させる。
- 「見方・考え方」を働かせる授業の実施
- 学力テストの分析や共有  
(平均正答率と比較し、下位層に当たる児童を抽出し、支援の在り方を見直し、学年で共通理解する。)

### 体力向上

- 運動の実施時間を増加  
→校舎のプレイパーク化  
→運動遊びの例示
- 体育授業の質の向上
- 誰もが楽しめる運動会  
→「城山小スポーツフェスティバル」の開催

<体力テストの結果から>

- 運動の実施の時間は、週に1、2日以上している児童が最も多い。
- 運動が得意だと思っている児童は、男女ともに肯定的な意見が多い。
- 体育が楽しいと感じている児童は大多数が肯定的である。
- 体育の授業で学習したことが将来役に立つと肯定的にとらえている児童も大多数を占めている。

### 特別活動

- 「わたしの“できる”は、誰かのためになる」という自己有用感や城山小への所属感を高める。
- JRC(青少年赤十字)「**気付き、考え、実行する**」を取り入れ、児童の主体性を育む。
- 話し合い活動の充実→「城山小 話し合いの進め方」をもとにした代表委員会、学級会の実施

<全国学力テスト児童質問紙からの抽出>

<考察>

- Q12. 学校に行くのは楽しいですか。  
A. 肯定的な意見が大多数を占める。
- Q13. 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか  
A. 肯定的な意見が大多数を占める。
- Q35. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。  
A. 肯定的な意見が大多数を占める。

- 他者との関わりを通して、活動することの楽しさ、成就感、達成感を得たり、自己有用感を高めたりする経験が学校生活の充実につながっていることがわかる。
- よりよい人間関係の形成のために、学級の支持的風土を高めていくとともに、学級での話し合い活動を継続していくことが必要である。